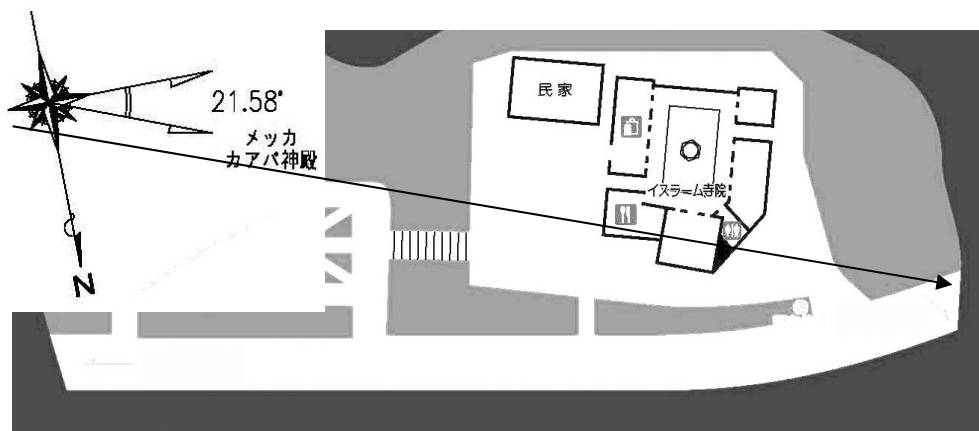


「トルコ イスタンブールの街」^{まち}

古来より文明の十字路として栄えてきた世界有数の大都市、イスタンブール。1600 年もの間、いくつかの帝国の首都であった旧市街は、ユネスコの世界文化遺産にも指定されています。ここに復元したイスラーム学院（メドレセ）は、オスマン帝国時代に建設され、今も旧市街にたち活用されている建物をモデルとしています。



【微妙にずれた配置^{びみょう} 家屋^{はいち} キブラ Qibla】

周遊路^{そっこう}や側溝からみて、家屋が微妙にずれているのわかりますか？今回の建物の配置の軸^{じく}は、キブラと呼ばれる方角です。イスラームを信じる人びと（ムスリム）は1日5回の礼拝^{れいはい}を義務^{ぎむ}としています。その礼拝は聖地メッカのカアバ神殿（サウジアラビア）に向かってするものと決まっており、その方向を示すために、復元したメドレセの講義室にもミフラーブ^{こうぎしつ}というくぼみを壁に設けてあります。このミフラーブのある壁を正確にメッカに正対させるため、厳密^{げんみつ}に計算して、家屋の配置を少しずらしました。リトルワールドの小さなこだわりです。

メフメット・アーってどんな人？

展示家屋のイスラーム学院（メドレセ）を建てた人、メフメット・アーはオスマン帝国のトプカプ宮殿^{ていこく きゅうでん}で、ハーレムを司^{つかさど}る責任者でした。ハーレムはスルタン（王、皇帝^{こうてい}）のプライベート空間であり、スルタンの妃たちや子どもたちが暮らす場所でもありました。御所^{ごしょ}でいえば「後宮^{こうきゅう}」、江戸城^{えどじょう}でいえば「大奥^{おおおく}」のようなところです。

この役職^{やくしょく}の正式名称はダリュッサーデ・アースですが、親しみを込^こめてクズラルアースと呼ばれました。クズは「乙女^{おとめ}」という意味で、ハーレムに暮らす女性たちをとりまとめる役目からついたそうです。

次の王となる皇太子^{こうたいし}やその母と常に接^{つね}し、親身に世話^{せわ}をし、信頼^{しんらい}を得なければ務まらない役目です。もちろん、スルタンとも日頃から接する立場ですので、自然^{はつげん}と発言権^{はつげん}が増し、宮殿の中では、スルタン、大宰相^{だいさいしょう}に次ぐ高い地位にありました。

クズラルアースになるためには、いくつかの条件がありました。帝国の中枢^{ちゅうすう}を担^{にな}う人材^{じんざい}ですので、頭脳明晰^{ずのうめいせき}であることは当然です。ハーレムを守るという重要な役目のためには、さらに清廉潔白^{せいれんけつぱく}、品行方正^{ひんこうほうせい}でなければなりません。スルタンの妃たちとの清^{きよ}い関係をはっきりさせるために、ハーレムに務める男たちはみな去勢^{きよせい}をした者、宦官^{かんがん}でした。

ムスリムは去勢を禁止されているので、異教徒^{いきょうと}・異民族^{いみんぞく}の少年を去勢して宦官とすることが常でした。メフメット・アーもトルコ人ではありませんでした。彼はアビシニア、今のエチオピア出身の黒人^{どれい}でした。奴隷とされ、去勢され、エジプト経由でイスタンブールに連れてこられる途中で、イスラームに改宗^{かいしゅう}し、頭角^{とうかく}をあらわし、出世^{しゅっせ}したのです。

妻^{さいし}子もないメフメット・アーは、宮廷生活で得た財^{きしん}を寄進^{きしん}し、メドレセやモスクやハمامといった、人びとの役に立つ施設をつくったのです。このモデルとしたメドレセ以外の建物もイスタンブールには残っており、人びとの集^{つど}う場所として活用されています。